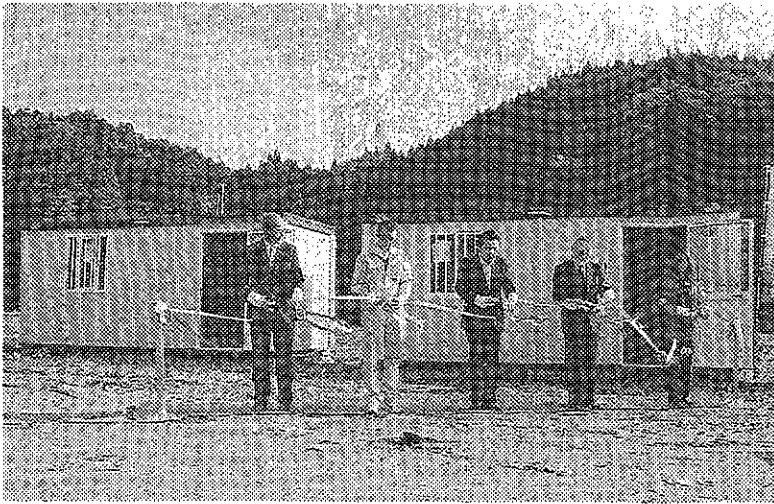


仮設商店街の活性願

なつかしい 未来創造へ コンテナ2基寄贈

陸前高田



陸前高田市の事業主らで立ち上げたなつかしい未来創造(株)（田村満社長）に2日、「仮設商店街の活性化に役立つほしい」と、国内外で展開する経営コンサルティング会社から商店用コンテナ2基が寄贈された。なつかしい未来創造では、商店街の早期開設と成功を興と自立を目指す。

同社は、事業の一つに「なつかしい未来商店街（仮称）」を計画。竹駒町相川地内の敷地約1600平方メートルにコンテナハウス20基やフードコート、公園などを設けて、商店街の復興と自立を目指す。

コンテナは商店として利用されるもので、今回の寄贈は、特定非営利活動法人・難民を助ける会が仲介役となって実施。同会では宮城県女川市でも同様の支援活動を行っており、賛同企業を求めたところ、経営コンサルティング会社・ローランド・ベルガー(株)が名乗りをあげ、コンテナ8基を用意することになった。

今回は先行する2基が贈られることとなり、贈呈式には田村社長やローランド・ベルガーの森健代表取締役、日本代表、難民を助ける会の野際紗綾子東北事務所長らが出席。関係者約50人が見守る中、はじめに野際事務

町
コンテナ贈呈を祝福してテープカット＝竹駒

所長が贈呈の経緯を紹介した。

続いて、来賓の久保田素副市長、菅野広紀市議が祝辞を述べ、支援に感謝するとともに仮設商店街の発展を祈願。森代表は、30カ国にある事業所の社員から集められた募金が資金となってコンテナが用意されたとし、「商店街を中心に陸前高田市がいち早く、心の面から復興することを心より願う」と述べた。

出席者らでテープカットを行い、コンテナの贈呈を祝福。田村社長は「この日を待ち望んでいた。商店街事業は計画の1つであり、ぜひ成功させたい。今後大変な道になるが、引き続き協力を願いたい」と謝辞を述べた。

コンテナはイタリア製で、大きさは5・65メートル×2・5メートル。この2基は、しんのすけ(飲食業)、あすなろホーム(販売業)がそれぞれ利用する。あすなろホームを運営する燦々会の中、はじめに野際事務

高井文子理事長は「販売活動も遠くまで足をのびさなければならず大変だったが、固定した場所があれば大変助かる。皆さんのおかげです」と感謝していた。